

7-10

『普通の生活』

自分たちは、何をすべきだろう

意識改革

社会福祉法人桐仁会 ちょうふ花園

介護長 榎本 耕

ユニットリーダー 深町 奈央

東京都調布市下石原 3-44-1

TEL 0424-84-2002

E-mail kaen@tojinkai.or.jp

FAX 0424-84-2286

URL <http://www.tojinkai.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人桐仁会 ちょうふ花園は平成16年3月に都内で初となる新型特養として開設。他にデイサービス・訪問入浴・地域包括・居宅支援があります。近くには、多摩川が流れ周りには畑も多く自然を楽しめる環境に建っています。

〈取り組んだ課題〉

- 『普通の生活』って・・・
- 2年間を振り返って

〈具体的な取り組み〉

- 生活・身体・精神・栄養・安全の分野を本人・家族の意見を基に他職種を絡めたケース会議を通じケアプランを作成
- 残存機能を活かしての個別浴槽の使用
- ハード面の検討
 - ・ 活用方法
 - ・ 見直し
- ユニット会議の定着
- 月間報告（課題→評価→課題）
- 教育委員会の設立
 - ・ 職員のユニットケアに対する意識調査
 - ・ 毎月1つの課題（目標）→評価
- 業務の見直し

〈活動の成果と評価〉

- ケアマネを専属配置することによりケアプランの進行状況を把握でき定期的な会議を持つことができていた。また、随時見直し変更も可能である。
- ケアプランの中に残存機能を使ってできる生活リハビリを取り入れることにより身体機能の回復・アップが見られ介護度も下がった。
- ハード面の見直しをすると同時に職員の不安要素を聞き入れ安心感を与えた。このことにより以前より事故件数の低下が見られる。
- 月間報告書を提出することによりユニット会議が定着された。1ヶ月の評価・課題を検討。また、ユニット内で統一した介護ができるようにと意見を出し合いチームワークの向上にもつながった。
- 意識調査を行ったことで何が優先なのかを把握できた。その内容や1つの行動を起こす時に1つ自分に置き換えると言ったことを繰り返し伝えたその結果、業務のスリム化につながり無駄な動きが徐々に減ってきている。

〈今後の課題〉

- ユニットケアというものを再度、勉強していく。
- 介護技術の向上
（個別ケアをより多く実践して行くにあたり



『普通の生活』